

「白川水系河川整備計画（変更原案）」について 学識経験を有する者からいただいたご意見

第10回 白川・緑川学識者懇談会

日 時：令和元年11月25日（月）10:00～11:45

場 所：熊本河川国道事務所 1階会議室

出席者：（委 員）小林委員長、井田委員、内野委員、大本委員、小柳委員、馬場委員、
前川委員、森山委員

<事前にいただいたご意見>

●1. 白川の概要

1.1 流域及び意見の概要

1.1.6 歴史・文化

文化財の種別を正式名称で記載すべき。記載漏れの文化財も追記すべき。

●1. 白川の概要

1.3 利水の沿革

菊池のかんがい用水群が世界かんがい遺産に登録されたことを踏まえた記載とすべき。

●5. 河川工事の実施に関する事項

5.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

5.2.2 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

(13) 市町による避難勧告等の適切な発令のための情報提供

近年、河川堤防の決壊による公共交通への影響が多々発生していることから、未然に、更には被害発生時に公共交通との情報共有についての記載があればよい。

<学識者懇談会でいただいたご意見>

○住民意見に、固定堰の可動化を早期に取り組んで頂きたいとの意見があった。国として改築等を検討中との事であるが、改築等との抽象的な表現でなく、可動化等と具体的に明記できないか。

○水害リスクライン等の言葉が出ているが、単に川の水位が表示してあるだけで、具体的に何が解るようになるかが解らない。一方で、水位計を密に設置する事は効果的で、上流の多くの水位計を見れば下流では水位を予測、雨に頼らずに水位を予測する事が出来る。今後、洪水予測の高度化は重要だと考える。白川では、阿蘇の水位が上がった3時間後に熊本市周辺の水位が上がることは明確なことなので、もう少し変更原案に文言を追加して住民及び市町の防災担当者が注意できるような表現にした方がよい。上流の水位が上がると危険であることを十分に理解してもらわなければいけない。

○ハード整備で対応する内容、ソフト対策として対応する内容については、地域の住民にもきちんと理解してもらう必要がある。変更原案にも記載されてはいるが、もう少し解り易く記載すべき。

以 上